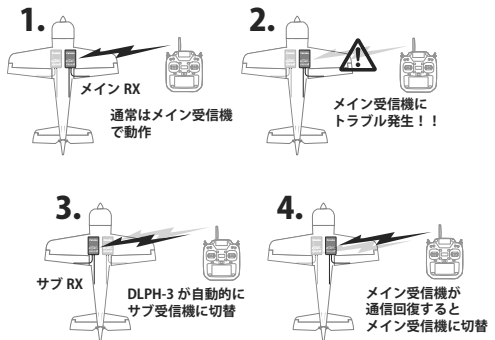


機能

機体に搭載した2つのS.BUS受信機のうちメイン受信機(Rx1)の受信状態が悪化した場合に自動的にサブ受信機(Rx2)に切り替えるシステムです。より安全に飛行を楽しむことができます。



受信機1個で使用する場合のシングルレシーバーモード、GYAジャイロとの組み合わせで使用する飛行機用ジャイロモードが選択できます。

このたびはデュアルRXリンクパワーHUB DLPH-3をお買い上げいただきありがとうございます。本説明書をよく読んで正しい使い方により末永くお楽しみください。

< DLPH-3 仕様 >

用途：2 受信機切替機器 FET(定格)：常時 60A
サイズ：43.6 × 66.0 × 19.3 mm 重量：34.6 g
動作電圧：6.4 ～ 13.0 V
付属品：●スイッチ ●フラジダンパー ●ハトメ ●木ねじ
●受信機接続コード×3 (1本は飛行機用ジャイロモード時に使用)

受信機のリンク

1. 接続図例のように2つの受信機を機体に搭載します。
2. 送信機のデュアルレシーバー機能を使用して2つの受信機をリンクします。

送信機をリンクモードへ (FASSTest 26/18CHの場合) ※リンク手順はそれぞれの受信機マニュアルにしてください。

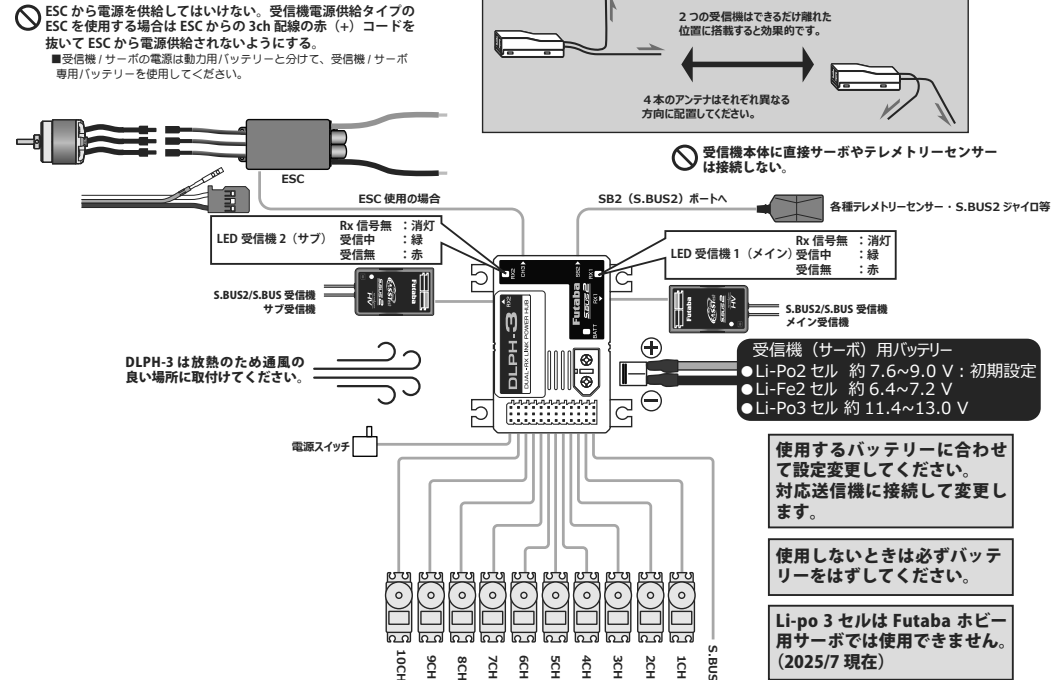


※デュアルレシーバー機能使用時はメイン受信機のみテレメトリ機能を使用できます。サブ受信機に切り替わった場合はテレメトリ表示が無効です。デュアルレシーバーモード以外のシステムではテレメトリをINH(無効)にしてください。

注意事項

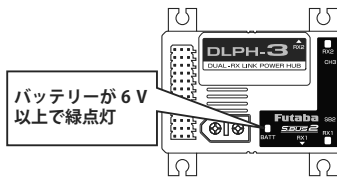
- ⚠ 警告
- ① コネクターの極性に注意する。
 - 飛行中にコネクターが抜けると、大変危険です。
 - ① コネクターはしっかり差す。
 - 燃料や水分がかからない位置に取り付ける。
 - 本製品には電子部品が使用されています。水分、衝撃、高温等に対する保護対策を施してください。
 - ① 配線ケーブルは機体搭載時、引っ張られた状態ではなく多少余裕があるようにする。
 - ケーブルが引っ張られた状態だと、振動により配線切れやコネクターが抜け、動作不良の恐れがあります。
 - ① 必ず2つの受信機と使用する送信機でリンクする。(シングルレシーバーモードを除く)
 - 2つの受信機がリンクされていないと動作しません。(起動後は片側のリンクが外れても一方は正常動作を続けます。)
 - ① Futaba S.BUS/S.BUS2 システムのセットで使用する。
 - Futaba S.BUS/S.BUS2 システム以外では使用できません。
 - ⊖ ESC から受信機電源を供給してはいけない。受信機電源供給タイプのESCを使用する場合はESCからの3ch配線の赤(+)コードを抜いてESCから電源供給されないようにする。
 - 受信機/サーボの電源は専用バッテリーを使用してください。
 - ⊖ 受信機本体に直接サーボやテレメトリセンサーは接続しない。
 - 大電流がDLPH-3のRxポートに流れて破損する危険性があります。
 - ⊖ 使用するサーボの使用可能電圧範囲を超えて大電圧を接続してはいけない。
 - 発煙・発火・破損の危険性があります。
 - ⊖ 瞬間60Aを超えては使用しない。
 - 参考：使用サーボ、フライトスタイルにより異なりますが、HPSサーボ10個でのアクロフライトを確認済みです。
 - ① 組立後は必ず動作検査を行う。
 - 検査が終わるまでは飛行させないでください。
 - ① フライト前に正常動作中のDLPH-3からメイン受信機の配線を抜きサブ受信機だけでもコントロールできるかを確認する。(シングルレシーバーモードを除く)
 - DLPH-3が切替動作をするかを確認してください。
 - ⊖ ラジコン模型以外には、使用しない。

接続例と使用方法



バッテリー LED

接続されたバッテリーの状態を示します。電圧が6V以下になると消灯します。



バッテリー F/S

- バッテリー F/S が設定できる受信機のバッテリー F/S 電圧は4.8V以下もしくはOFFにしてください。

バッテリー F/S が設定できる受信機の場合、DLPH-3からの出力電圧が5Vなので、バッテリー F/S を5V以上に設定すると常時バッテリー F/S が作動してしまいます。

F/S

- RX1(メイン受信機)およびRX2(サブ受信機)が受信不能時、F/SデータはRX1(メイン受信機)の出力が優先されます。

テレメトリ機能(電圧表示)

使用する送信機とメイン受信機間で受信機バッテリー電圧をテレメトリ表示することができます。送信機にテレメトリ表示される通常の受信機バッテリー電圧は一定数値(約5V)の表示になりますので、"テレメトリ電圧計"の"バッテリー"で電圧を監視してください。ただし、サブ受信機に切り替わった場合は電圧表示されません。DLPH-3は、連続する2つのスロットを使用します。初期設定で開始スロットは6に設定されています。それ以外で使用する場合開始スロットとして割当てできるのは、下記の番号となります。

1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30.

送信機とDLPH-3のSB2ポートを接続するとセンサー登録などができます。(DLPH-3へバッテリーを接続して電源供給が必要)スロットNo.の変更や表示方法、アラームの設定などはテレメトリ対応送信機の説明書をご参照ください。

修理・アフターサービス、プロボに関するお問い合わせは弊社ラジコンカスタマーサービスへどうぞ

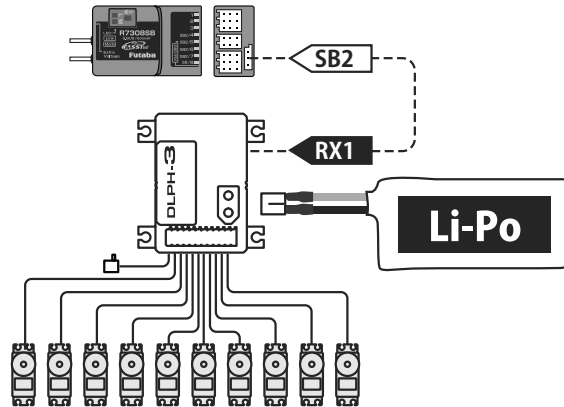
■ 双葉電子工業(株)ラジコンカスタマーサービス
〒299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚1080
TEL.(0475)32-4395

各用途の接続例

シングルレシーバー

☆☆☆ シングルレシーバーモード

DLPH-3を対応送信機のS.I/Fコネクタに接続してモード変更してください。

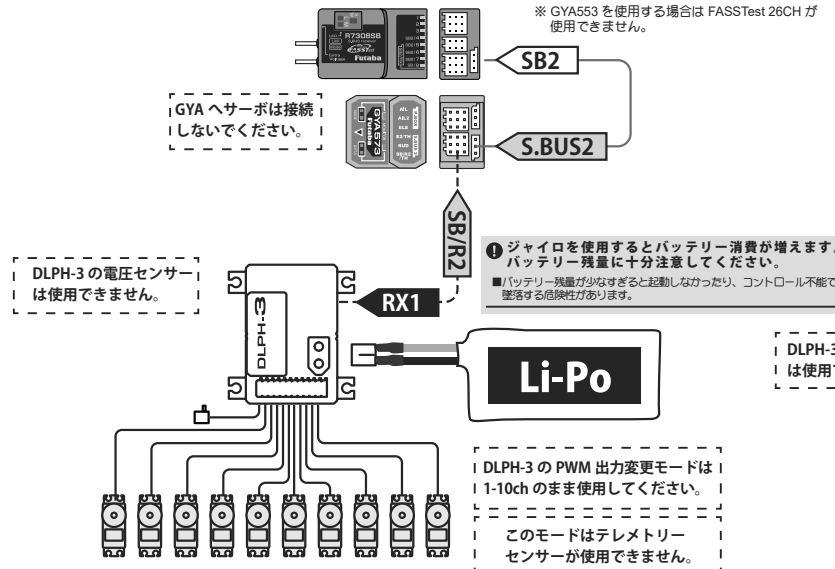


受信機を1個を使用する例です。デュアルRX機能は可動しないので万一の受信のトラブルには対応しません。

シングルレシーバー +GYA 飛行機用ジャイロ

☆☆☆ シングルレシーバーモード

DLPH-3を対応送信機のS.I/Fコネクタに接続してモード変更してください。

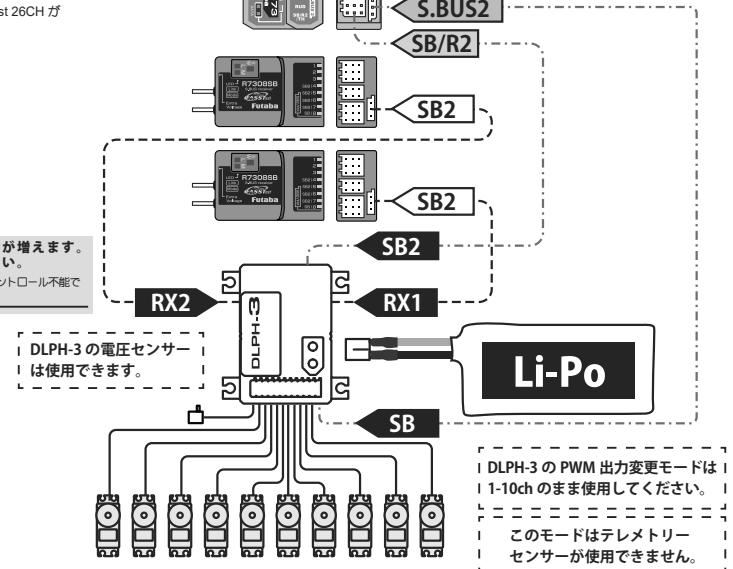


受信機を1個使用してGYA飛行機用ジャイロを使用する例です。デュアルRX機能は可動しないので万一の受信のトラブルには対応しません。

デュアルレシーバー +GYA 飛行機用ジャイロ

☆☆☆ 飛行機用ジャイロモード

DLPH-3を対応送信機のS.I/Fコネクタに接続してモード変更してください。



受信機を2つ使用して、GYA飛行機用ジャイロを使用する例です。バッテリートラブルに対応します。デュアルRX機能が可動し万一の受信のトラブルに対応します。

DLPH-3 のモード変更

DLPH-3のモード変更は対応送信機のS.I/Fコネクタに接続して行います。設定方法は対応送信機のアップデートマニュアルに記載されます。

対応送信機で変更できる機能

① バッテリーの種類

- Li-Po 2セル (初期設定)
- Li-Fe 2セル
- Li-Po 3セル

② 設定モードの変更

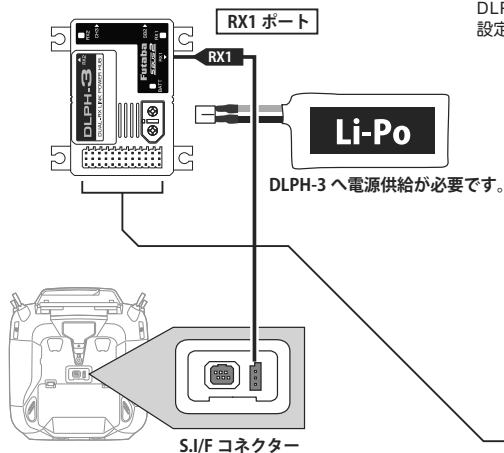
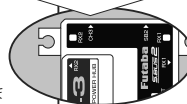
- デュアルRXモード (初期設定)
- **シングルレシーバーモード**
- **飛行機用ジャイロモード**

③ PWM出力変更モード

- 1-10ch (初期設定)
- 11-20ch
- 21-24ch

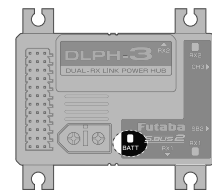
このPWMポートを1-10CH (初期設定) から11-20CH, 21-24CHへ変更できます。シングルレシーバー +GYA 飛行機用ジャイロ時または飛行機用ジャイロモード使用時は1-10chのまま使用してください。

- 11-20CHの場合はこのCH3がCH13になります。
- 21-24CHの場合はこのCH3がCH23になります。

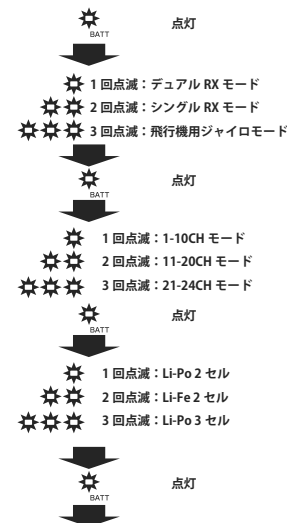


対応送信機
該当アップデートに対応したもの

起動時のバッテリー LED 表示



起動時のバッテリー LED 表示でDLPH-3の現在の状態をお知らせします。



この間は、バッテリーの電圧にかかわらずLEDが点灯します。バッテリーの監視はこの後のLED表示で判断してください。

バッテリー LED

起動時の点灯が終わるとバッテリー LED が点灯します。6V以下になると消灯します。